

老人福祉施設への 全電化システム ご提案と導入事例

安達忠司

あだち ちゅうじ 東北電力(株) お客さま本部 お客さま提案部
エネルギーソリューショングループ コンサルタント

1. はじめに

ご提案コンセプトは、三身一体づくりを電気がお手伝い。そして、施設に住む人の身になって、介護する人の身になって、設備を使う人の身になってご提案すること。

これは、私が老人福祉施設の提案書作成において必ず念頭に置いている視点である。言葉を替えると、「オール電化が支える、人にも環境にも優しい安全・安心の施設」ということになる。

しかしながら、電気で施設の何がお手伝いできるのかを、言葉ではきれいに装飾できたとしても本当に電気のできるのか、このことに少なからず疑問を持たれる方もいるようだ。

ここでは、ある老人福祉施設におけるオール電化提案事例を振り返りながら、私が感じている提案のポイントを示していきたい。

2. お客さまとの対話

弊社の支店 SE（セールスエンジニア）の依頼で施設のオーナーさまにアポイントをとったところ、設計者も一緒に話を聞きたいとのことであった。

さっそく伺ったところ、オーナーさまが真っ先におっしゃったのは、「笑い声の聞こえる丘にしたい。」とのお話だった。そして、「施設の中庭には芝生を敷き詰め水があふれる噴水があり、ぜひ地域みなさんに遠足のコースとして訪れていただき、お弁当を広げたり、水遊びをする子供たちの笑い声が響く施設にしたい。そのためにも、ブランコや滑り台などの遊具を充実させたいと考えており、施設で生活されるゲストのみなさんが地域の方々に接する機会を多く持てる、地域にとけこむ環境を提供したい。」と続けられた。

私はこのお話に大変強い感銘を受けた。後に竣工した施設も、まさにこの時のお話を具現化したものであり、感銘を新たにすることを思い出す。

そして、私はこう思った。「施設における地域の方々との交流に、自然の恵みを活用できたら良いのではないか、プロの人達が施設を作るのだから良い施設にするのは当然のことだ。」

オーナーさまは更に続けられた。「福祉施設のゲストは何が一番嬉しいかといったら笑い声なんだよね。それと、子供たちの遊ぶ姿も嬉しいんだよね。走ったり、笑ったり、泣いたり、あの子は大丈夫かな、と心配したりすることがみなさん喜ぶんだよね。その次が食事とお風呂だね。人との会話のできる時間なんだよね。もう一つ大切なのが適度な静けさと適度な音だよね。いろんなゲストがいますよ。絵を書いたり、文を書いたり、歌を唄ったり、自分の趣味をしたり。」

その他にもたくさんの参考になるお話を拝聴した。実際にゲストと接している方達の話に興味深く聴き、「ゲストが主賓」の施設づくりをしてきたオーナーは、「施設を新築するにあたって、是非私の話を参考にしてください。」と最後におっしゃった。

「人と自然がやさしく集う」風景が私の目に浮かび、このご提案において電気がお手伝いできることはナチュラルであり、これをモットーとすることが第一だと考えた。そこで、その場にあったホワイトボードに下記の言葉を書いてみた（図1）。

そうしたところ、「オッ、電気は何でもできるんだね。」との声がかかった。続いて、設計事務所の幹部の方から「環境にも電気は優しいんだよね。」という声が

冬そして春への季節	陽だまりの暖かさを	蓄熱式電気床暖房システムでつくります。 電気式ヒートポンプエアコンで快適維持
夏の季節	穏やかな木陰の涼しさを	電気式ヒートポンプエアコンで快適維持
日常生活の快適さ	地球にやさしいお湯づくり	蓄熱式大型電気温水器でお湯を沸します。
美味快適	使い易く快適厨房環境	オール電化厨房システムで美味しい食事

図1 施設のゲストに季節変化の快適さの維持